

冬の星空

～ 夕方にみえる 明るい星は？ ～

昨年末からずっと、夕方の西の空に、とても明るい星が見えていることに気づいていますか。
この明るい星の正体は、宵の明星・金星です。

金星は、私たちの地球と同じく太陽の周りをまわる惑星の一つ。地球の内側で太陽の周りをまわっているため、地球からはいつも太陽の近くに見えます。そのため、真夜中には見えず、明け方の太陽が出てくる前や夕方の太陽がしずんだ後の限られた時間にしか見ることはできません。これを区別して、明け方の東の空に見えるときを“明けの明星”，夕方の西の空に見えるときを“宵の明星”と呼んでいます。



図1. 地球と金星の位置関係と金星の見え方

金星の明るさは、マイナス4等級前後ととても明るく目立つ明るい星の一つ。しかし望遠鏡などで観察してみると、三日月のように細く見えたり、半月のように太くなったりと、月と同じように満ち欠けをしていることがわかります。

なぜでしょうか？

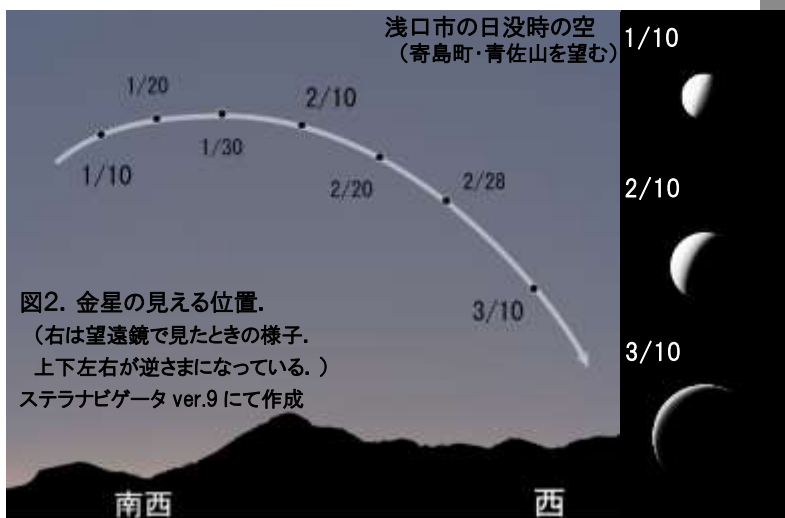


図2. 金星の見える位置。
(右は望遠鏡で見たときの様子。
上下左右が逆さまになっている。)
ステラナビゲータ Ver.9 にて作成

惑星も、月と同じように太陽の光を反射して光っているため、太陽の光が当たった昼側(太陽に向いた側)は光って見えますが、反対側、太陽の光が当たっていない夜側は暗く見ることはできません。図1のように地球との位置関係によって、金星の光って見える部分が変わり、月と同じように満ち欠けして見えます。

月の満ち欠けとちがう点は、金星の見かけの大きさもだんだんと変化していくことです。お互いに太陽の周りをまわっているため、地球と金星の距離が大きく変化していきます。それにもよって金星の見かけの大きさも、金星が地球から近い時は大きく見え、遠い時には小さく見えるようになります。

望遠鏡があれば、ちょうどこれから、金星が半月状から三日月状に細く欠けながら見かけの大きさが大きくなる様子を楽しめます。ない人も、宵空に輝く金星に目を向けてみましょう。1月31日や3月1日頃には近くに細い月もやってきて並んだ光景を楽しめますよ。

大型モニターが登場！

この冬、博物館に新しく大型モニターが登場しました。

巨大なスクリーンに映しだされる宇宙空間は、迫力満点！宇宙船から宇宙の様子をながめたり、自分で星座をついたり、宇宙を体感できる楽しいコンテンツがもりだくさんです。ここをちょっとだけポイントを紹介します。

◆ ここがポイント！ (1) 約 130 インチの大型モニター

液晶パネル4枚を組み合わせたマルチスクリーンシステムです。タテ 2.6メートル×ヨコ 3.2メートルの壁一面に広がる巨大なスクリーンに迫力の映像が映しだされます。



◆ ここがポイント！ (2) タッチパネルシステムをどうぞ

大きな画面をタッチすることでいろんなコンテンツを楽しめます。星と星をつないで自分だけのオリジナル星座をつくったり、お絵かきしたり・・・思いのままに星空で遊ぶことができます。



“宇宙探査”では、宇宙船シリウス号に乗って地球へ。広大な宇宙から太陽系にもどるときに待ち構えるミッションをクリアすると、自分が宇宙に入ったかのような体験も・・・



“世界の天体望遠鏡”では、世界にある約40の大型望遠鏡について調べることができます。どんなところにあるのか？地球上空から迫って、天文台をみつけよう！

◆ ここがポイント！ (3) 宇宙のなかへ入りこむ体験



◆ ここがポイント！ (4) 世界の天文台をしらべる

博物館からのお知らせ

・プラネタリウム冬番組「オーロラの調べ - 神秘の光を探る - 」& 「KAGAYA写真展」

期間：平成 29 年 3 月 5 日（日）まで

内容：プラネタリウム番組を制作したのは、透明感あふれる作風で、国内外に多くのファンをもつアーティスト KAGAYA 氏。アイスランドやアラスカで撮影したオーロラや大自然の美しい映像が、ドームいっぱい広がります。あわせて、KAGAYA 写真展も開催中です。オーロラや世界各地の星空の写真を展示しています。プラネタリウムとあわせてお楽しみください。

< 編集後記 >

★ 先日、市内の中学校で金星の観察会を行いました。中学校の理科では、金星の見方について学習しますが、金星を望遠鏡で見たことがある人はどれくらいいるでしょうか。もっとたくさんの人に観察してほしいので、これからどんどん星の観察会を企画していきたいと思っています。お楽しみに！ tomo

(お問合せ先)

岡山天文博物館

☎ 0865(44)2465